



しんぐうしゃ おおとししゃ えんぎ 新宮社と大歳社の縁起

新宮社

祭神 きくりひめのかみ いづつげのおのかみ はやたまのおのかみ
菊理姫之神・泉津事解之男神・速玉之男神
祭日 秋祭10月第3日曜日・越年祭

言い伝えによると、おうこれんねん 往古連年悪病流行の節、農民が土中より発掘した金像を自家神棚に安置しておいたところ、毎夜光を放つのでこれをご神体として社殿を建てさいし祭祀すると、悪病が退散したので、それ以来小屋浦の氏神としてかんじょう勧請したといわれています。

創立年月日は不詳で、元文2(1737)年社殿を再建し、明治23(1890)年ころ改築しました。そして、大正9(1920)年再々建、昭和30(1955)年鳥居建立し、その後も修復を繰り返し今日に至っています。

大歳社

祭神 おこなむちのかみ おおくにぬしのかみ
大穴牟遲神(大国主神の別名の一つ)

あいどの 相殿の大歳社は旧称をちのしさん地神社又はうしがみしゃ牛神社(通称：ぎゅうじん牛宮さん)ともいわれていました。以前は境内の山頂(通称：まんじゅうやま饅頭山)にちんざ鎮座されていたものを明治20(1887)年ころ現在地(現：大歳社)にせんざ遷座されました。新宮社境内にはおおぼん神社・おおとし神社が鎮座されていましたが、二社とも老朽化により大歳社にごうし合祀されました。昭和42(1967)年に社殿を再建しました。

